

拝啓

晩秋の候、全国の校友の皆様にはおかわりございませんでしょうか。福島県校友会に対し、いつも格別のお力添えをいただき、誠にありがとうございます。

さて10月に2回にわたり開催された『2012年度立命館大学校友会東日本大震災復興支援事業』の「東北応援ツアー/スパリゾートハワイアンズコース」と「同/東山温泉コース」に多くの校友にご参加いただき、被災地の現実を直視し、また県内の校友との交流の機会をいただき誠にありがとうございました。

立命館大学校友会東日本大震災復興支援特別委員会の辻 寛委員長はじめ同委員の今中智幸さん、田邊 裕さん、校友会事務局の村上吉胤副事務局長、古石章子さん、参加いただいた校友各位、さらにツアー実現のために尽力されたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

沿岸部が津波で甚大な被害を受け、双葉郡の原発事故警戒区域からの避難住民2万3千人以上を受入れているいわき市。そして多くの困難を乗り越えて復興したスパリゾート・ハワイアンズとアクアマリンふくしま。今なお農業や観光面で風評被害に苦しむ会津若松市。実際にご覧になり、話を聞いて皆様はどのような感想を持たれたでしょうか。

福島県内は復興に向けて歩んでいるとはいえ、校友の中には津波で自宅と財産を失なって依然仮住まいが続いたり、原発事故警戒区域内の自宅からいまだ避難を余儀なくされている方々がいます。そして放射能の子供達への影響を心配して県外に自主避難している方も複数おります。しかし福島県の校友たちも郷土の復興のためにそれぞれの立場で前向きに取り組んでいます。これからも皆様からの期待と願いに応え、私達もがんばってまいります。

日々、困難と闘っている県内校友をどうかこれからもあたたかく見守り、励ましてください。そして今回の体験をぜひ周囲の皆さんに伝えてください。

最後になりましたが、立命館と全国の校友の皆様からのご支援に重ねて感謝申し上げますと共に、ぜひ福島県内各地を訪れていただきますようお願い申し上げます。

敬具

平成24年11月

立命館大学福島県校友会 会長 桑原 勇健（1969年理工学部卒）  
同 上 校 友 一 同